

書写

項目	観点	教科書名			
		新しい書写(2・東書)	現代の書写(15・三省堂)	中学書写(17・教出)	中学書写(38・光村)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○文字を正しく整えて速く書く力を身に付けるために、どのように配慮されているか。	・教科書冒頭で、「文字を正しく整えて速く書く力」について、学習や生活の具体的な場面を示しながら説明している。 ・文字を正しく整えて速く書くための大事なポイントを「書写のかぎ」と名付け、各教材に示されている。 ・行書の学習では、学習の流れが明確に示され、楷書との違いを確かめながら、見通しをもって学習できるように構成されている。 ・毛筆教材の書面に、他の文字を硬筆で書く欄が設けられており、毛筆で学習したことを硬筆に生かせるようになっている。	・教科書冒頭で学習の流れを示し、見通しをもって学習できるように配慮されている。 ・各教材に「書き方のポイント」が示され、書き方のコツが分かるように工夫されている。 ・毛筆学習のあとに硬筆で確かめる「書いて身に付けよう」が設けられており、毛筆の学習が硬筆の書写能力の基礎を養えるように構成されている。 ・行書の学習では、どの教材にも「指でなぞって書き方のイメージをつかもう」の表記があり、毛筆で書く前のイメージを大切にしながら学習できるように工夫されている。	・教科書冒頭で、具体的な場面絵とともに「身につけたい力」として「読みやすく、速く書く力を身につけよう」と示されており、学習の目的が明確になっている。 ・行書の筆の動きについて、朱墨で書いた手本と穂先の写真を用いて詳しく解説し、行書の基礎的な書き方を段階的に学べるように工夫されている。 ・毛筆の教材では、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」の順に学習が進められるように構成され、学習者が見通しをもって学習できるようになっている。 ・書く速さを意識して硬筆で書くページがいくつもあり、毛筆の学習によって硬筆の書写能力の基礎が養えるように構成されている。	・全教材に「学びの窓」が設けられており、学習のポイントがひと目で分かるように構成されている。 ・毛筆教材では、朱墨や筆使いを示す写真を用いて筆脈や穂先の動きを把握しやすいように示されている。 ・行書の単元末の書面では、速く書くことが日常生活の中のどのような場面で生かされるのかを具体的な例を挙げて説明している。 ・教材は、「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」の3つの内容で構成され、見通しをもって学習できるようになっている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫が見られるか。	・楷書や行書の特徴と共に、実生活の中のどのような場面で生かすことができるかが具体的に示されている。 ・各単元の導入部分で「見つけよう」という課題発見のコーナーを設置し、生徒同士で話し合いながら単元の課題とその解決方法を探ることができるよう配慮されている。 ・巻末の「書写活用ブック」は、目的に合わせて様々な書式を選んで活用できるように工夫されている。 ・Dマークのある教材は、インターネットを使って動画や資料を活用することができるようになっている。	・単元の学習の流れが統一されており、生徒が自分の言葉でまとめたり、生徒同士が互いに学習の成果について交流したりしやすくなるように配慮されている。 ・巻末の「資料編『日常の書式』」では、生活に必要なさまざまな書式が提示されており、書写に関する資料が充実している。 ・姿勢や筆の運び方、筆の持ち方のページには二次元コードが添付されており、読み込むことで動画が視聴できるようになっているため、動きを確認しながら個人で学習することができるよう配慮されている。	・単元ごとに「振り返ろう」という自己評価・相互評価の時間を設け、「点画の書き方」「書く速さや筆圧」等の「話し合いのポイント」が示されていることにより、明確な観点をもって、互いの学習の成果について交流することができるよう配慮されている。 ・全教材分の毛筆動画が収録されており、ウェブサイトから利用できるようになっている。	・単元の冒頭部で「考えよう」という活動を位置付け、課題に対しての意見を交流する場が設けられている。 ・コラムのページでは外部サイトから資料や動画が見られる二次元コードが添付されており、興味関心を自ら広げていくことができるよう配慮されている。
3 配列・分量	○教材の配列並びに分量についてはどのような特色があるか。	・各単元の末尾に「生活に広げよう」のページがあり、学んだことをどのように実生活に生かすことができるかが分かるようになっている。 ・手紙や年賀状、お礼状の書き方など、学校行事や年中行事と関連付けながら学習することができるように配列されている。 ・古典の学習教材を行書で書くなど、教科の学習内容との関連付けが多くなされている。	・1年生で楷書と行書、2年生で行書と行書に調和する仮名、3年生で身の回りの文字・手紙や名言集などの実生活に生きる文字の使い方、という学習の流れになっており、段階的に学習できるように配列されている。	・コラムが適宜配置され、学習した内容がどのように活用できるか、実生活の中のどのような場面に生かされているかが写真と共に紹介されており、学習したことが活用される場面を一人一人が想定しやすくなるよう配慮されている。 ・古典教材やポスター、案内状など、教科の学習内容と関連付けて学習することができるように構成されている。	・学年に関わらず、学習内容ごとに題材が配置されているため、既習事項の振り返りがしやすく、系統的に学習に取り組めるよう配慮されている。 ・別冊として「書写ブック」がついており、学習した内容をすぐに振り返ったり確かめたりできるよう工夫されている。
4 表記・体裁	○表記や表現、体裁について、どのように配慮されているか。	・手本を薄墨で表記し、なぞりながら練習することができたり、チェック欄を多く配置することで、順を追って学習に取り組むことができたりするよう配慮されている。 ・筆の動きや使い方を図で示したり、資料の写真などを多く配置したりすることで視覚的に分かりやすい工夫がされている。 ・色覚の個人差を問わずに理解しやすいように、カラーユニバーサルデザイン・ユニバーサルデザインフォントが採用されている。 ・教材は、見開き1ページとなっており、朱墨を使った手本も示されて見やすく構成されている。	・学習材となる文字が大きく示されており、「とめ」「はね」「はらい」など、文字の形が捉えやすいよう配慮されている。 ・色覚の個人差を問わずに理解しやすいように、カラーユニバーサルデザインが採用されている。 ・毛筆教材のページでは、見開きの書面が3分割でレイアウトされており、見やすく構成されている。	・見開きの幅が大きめになっていることで、手本の字が大きく、余白や字間のバランスが見取りやすいよう工夫されている。 ・手本の文字を大きく示した次のページに、朱墨と薄墨で筆圧の加減が分かるように文字が示されている。 ・色覚の個人差を問わずに理解しやすいように、カラーユニバーサルデザイン・ユニバーサルデザインフォントが採用されている。 ・半紙形の紙面により、書き始めの位置や文字の大きさ、余白のとり方が実感できるようになっている。	・姿勢や筆の運び方・持ち方、それぞれの題材の手本のページには二次元コードが添付されており、読み込むことで動画が視聴できるようになっている。 ・文字と文字の間、画と画の間の筆の運び方が朱点線で示されており、点画の連続性を意識しやすいよう工夫されている。 ・色覚の個人差を問わずに理解しやすいように、カラーユニバーサルデザイン・ユニバーサルデザインフォントが採用されている。 ・毛筆の手本は、半紙原寸大となっており、大きく分かりやすい教材文字となっている。